国語科学習指導案

大阪市立南市岡小学校　　指　導　者　中林　真理子
主幹学校司書 辻　　智恵子

１．日時　　令和７年１０月８日（水）　第５時限（１３：４５～１４：３０）
２．学年・組　４年１組　２４名（男子１５名、女子９名　在籍）
３．場所　　学校図書館
４．単元名　　「目的に合わせて要約しよう」
　　「『和のみ力』をしょうかいしよう」教材（東京書籍４年下「くらしの中の和と洋」）
５．単元の関連と系統

４年・７月　前単元

単元名
表し方のくふうを読み取ろう
「広告を読みくらべよう」（東京書籍　４年上）
　二つの広告を読み比べて表し方の工夫を読み取り、なぜ違いがあるのか

４年･１０月　本単元

単元名
目的に合わせて要約しよう
「くらしの中の和と洋」
（東京書籍　４年下）
　自分の考える和室のよさについて、書かれていることの要約を用いて紹介することができる。

単元名
目的に合わせて材料を整理しよう
「『和のみ力』をしょうかいしよう」
　（東京書籍　４年下）
　目的に合わせて材料を整理し、『和と洋』の紹介のためのプレゼンテーションを作り、紹介することができる。

４年･１月

単元名
日本語の数え方について考えよう「数え方を生み出そう」（東京書籍　４年下）
日本語の数え方に対する筆者の考えを捉えて、自分の考えを広げることができる。

６．学習目標
【読む】
　〇和と洋のよさについて、書かれていることの要約を用いて紹介することができる。
　・和と洋を比較しながら読み、目的を意識して中心となる語や文を見つけることができる。
　・写真や本文から、気付いたことを伝え合おうとすることができる。
【書く】
　〇目的に合わせて材料を整理し、「和のみ力プレゼンテーション」を作ることができる。
　・相手や目的を意識して、経験したことや想像したことから書くことを選んでいる。
　・情報をわかりやすく図表に整理したり、考えたりすることができる。
　・調べたことをまとめるために、事実やそれを基に考えたことを書くことができる。

７．評価規準

知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	読む能力	書く能力	
・比較や分類の仕方を理解し使っている。(2)イ ・書き留め方、引用の仕方や出典の表し方を理解し使っている。（2）イ	・段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述をもとに捉えている。(C(１)ア) ・目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約している。(C(1)ウ)	・相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた資料を比較したり、分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(B（1）ア) ・書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところをみつけている。(B(1)オ)	• 進んで目的に合わせて文章を要約し、学習の見通しをもって、紹介文を書いて感想を伝え合おうとしている。

８．指導にあたって

（児童観）

本学級は、外で元気に活動する児童が多い。また、短い休み時間等には読書をする姿も多く見られ、読書好きな児童が多い。週２回の朝の読書タイムでは、絵本や中学年の読みものに加えて、シリーズものの物語などを、時間をかけてじっくり読む児童もいる。

４月初め、自分の意見や感想を書く場面では、大きな課題が２つあった。一つ目は、約４割程度の児童が漢字を覚えおらず文章全文がひらがなであったり、短文であっても読み手を意識した文章を書くことが困難で字形や文字の大きさが整っていなかったりしたことである。２つ目は、タブレット端末を使用することに過度に慣れてしまい、「タブレットを使ったら早いし簡単だ」と述べるなど、自らの手を動かして文字を書いたり、辞書を引いて言葉を調べたりすることに面倒くささを感じている様子が見られた。

この状況を踏まえて、本学級では文字や文を書いたり、辞書を引いて言葉を調べたりする活動を国語科のどの単元でも取り入れてきた。

５月の「ヤドカリとイソギンチャク」の学習では、説明的文章の文の構成を理解し、文をまとまりごとに分ける学習を行った。児童は、文章が順序だてて書かれていることや、筆者の主張にも気づくことができた。学習のまとめとして、「生き物紹介リーフレットをつくろう」という言語活動に取り組んだ。生き物の生態を調べる活動を通して、児童は動物たちの子どもを育てるという命をつなぐ営みや、自然の中で生きる厳しさについて、より関心を持つことができた。

７月の「広告を読み比べよう」の学習では、２つの資料を読み比べ、共通点や相違点を読み取ったり、目的に応じた作り手の工夫などを考えたりする活動を行った。児童は、それぞれに使われている写真やキャッチコピーの文に、読み手を意識した意図があることについて理解できた。また、『子どもの急な発熱に』という見出しの広告のキャッチコピーについては、「親がすぐ熱を測りたいような書き方をしている」と話す児童がおり、書き手の思いを学級の児童全体と共有することができた。

に思いについても迫ることができた。

本単元に入る前に、以下の項目でアンケートを行った。（学級調べ、令和７年７月１５日（水）実施、２４名）

質問１：和（日本）と、洋（日本以外のもの）にはどんなものがありますか。	
和のもの	洋のもの
衣服　…きもの（１４人)、ゆかた、ぼうし、下駄 住まい…机（低い)、ふすま、ざぶとん、こたつ、かまど、炊飯器、洗濯機 食　　…寿司、みそ汁、ごはん、さしみ、お茶漬け、天ぷら(ポルトガル語)、麦茶 文化 …筆、祭り、カルタ(ポルトガル語)、凧揚げ、折り紙、将棋、盆踊り、花火、お手玉	衣服 …シャツ、ぼうし、スカート、カチューシャ 住まい…ソファ、トイレ、テレビ、ベット、ビザカッター、人形 食　　…ハンバーグ、ハンバーガー、ナポリタン、ピザ、パン 文化…ボールペン、トランプ⊥、クリスマス、ハロウィン、パレード
質問２：あなたは「日本のもの」について調べたことがありますか。	
・ゆかたを着たことがある。（７人） ・３年生の社会科で学習した。	・下駄をはいたことがある。（１人） ・家族と今昔館に行ったことがある。

児童の約半数は、衣・食・住・文化について、「和と洋」の違いを「和＝日本のもの」ではなく、「和＝身の回りに昔から当たり前にあるもの」と認識していることがわかった。しかし、その他の児童は、「わからない」や「なんとなく」と書いたり話したりしていた。

今回の学習を通して、当たり前にある和のものと対になる洋のものの良さを調べ、その後、「和のみ力」について焦点を当てて調べることとなる。

調べ活動は、どの児童も意欲的で、自ら進んで本を手に取り読み進めることができる。しかし、情報をまとめたり、書いたりする活動については、個人差が大きい。今回は、２つの単元全体を通して、書く活動が多くなる。目的を明確にして文を書くことに慣れていない児童は、書くことに躊躇することが予想されるため、スモールステップでどの児童も書くことができるようにしたい。

（学校図書館との協働）

① 読書センターとしての学校図書館

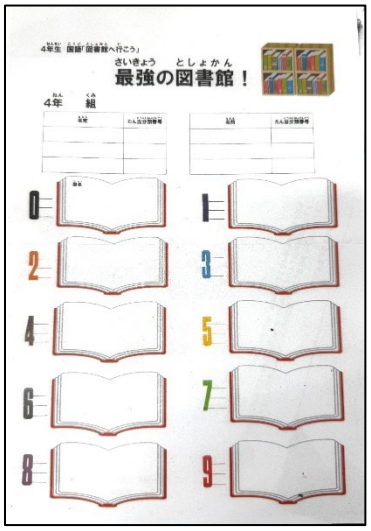
本学級では、４月から「図書の時間」を週１回行っており、多くの児童がとても楽しみにしている。図書の時間には、ほぼ毎回、児童の学習活動に関連づいた内容で、主幹学校司書が読み聞かせを行っており、それも児童が楽しみにしている理由の１つである。貸出については、3 冊のうち１冊は分類９の物語の本を入れることとしており、学校全体でも貸し出し図書のうち１冊は分類９の物語の本を借りることとしている。その理由としては、本校の研究主題が「思いや考えを豊かに表現し、相互に理解を深め合う児童の育成」としており、国語科教育で物語の読解指導に取り組んでいることが挙げられる。

児童は、物語文を読むことを通して、様々な立場や考え方生き方に触れる。それを積み重ねていくことは、生活や人生に起きる様々な出来事に向き合うための素地を養うことにつながる。それは、外的な経験だけでなく、内的な気持ちの揺れ動きや、自他を客観的に観るなどの経験が物語を通してできるからである。本校では、「物語を読む」機会をより多くもち、児童自身も「自分の物語を生きている主人公」あり、大切にされる存在であることを伝えるようにしている。これについては、「『生きる』教育」の取り組みともつながっており、学校図書館で、より多くの物語に触れるという取り組みを重要視している。

これらの取り組みを経て、基本的な学校図書館の使い方や、過ごし方など、読書センターとしての学校で図書館の活用は、多くの児童に定着している。

② 学習センターとしての学校図書館

４月の「図書館へ行こう」の学習では、「最強の図書館を作ろう」をめあてに、「日本十進分類法」や「本のつくり」について理解し、図書を活用する学習を行った。



活動の流れとしては、１グループ６人で分類０～９の本の担当を決め、それぞれの分類で自分が一番面白そうと思う本を選び、ベスト１として、ワークシートに記入する。分類０～９までのベスト１がそれぞれ乗っており、「最強」の図書館となる。この活動を通して、児童は、普段手に取らない分類０や１、２、３などの本を手に取り読み進めたり、内容をみて「おもしろそう」と友達に話したりして、すべての分類に触れることができた。

主幹学校司書によるワークシートや資料の提供により、児童は本が分類別に分かれており、さらに細かいジャンルへと細分化されていることや、それが目的に応じて調べる際の学校図書館活用に有効的であることに気付くことができた。

５月の「生き物紹介リーフレット」作成において、学習センターとしての学校図書館の活用も経験した。作成にあたって、「個別最適な学習」として、児童の主体性を促すために、児童が自分で選んだテーマについて１人１冊資料を確保することを重要視して学習を進めた。

児童は、動物図鑑（約 32 ページ）の多くの情報の中から、紹介したい観点を３つ決め、目的に応じて情報を整理しまとめる活動を行った。言語活動の５時間のうち、３～４時間を学校図書館で行い、調べ学習や、情報活用の支援を行った。そして、リーフレットの発表や紹介は図書館で行った。

作成過程において、自分で目的に応じて文章を選んだり、要約したりして意欲的に取り組む児童もいたが、一冊の本の中の膨大な情報から、必要な情報を選ぶことに難しさを感じる児童もいた。

しかし、読み書きの支援を主幹学校司書と指導者で個別に行いながら、学習の最後には、どの児童も自分の調べたい動物を選び、最後にはリーフレットにまとめることができた。活動を通して、「パンダの赤ちゃんは 15ｃｍだった。あんなに大きくなるのに。」や、「キツネのお母さんは、子どもをわざと巣から遠ざけて独り立ちさせるんだって。」と、得た情報を周囲に伝えるなどとても意欲的に取り組む姿が見られた。また数名の児童は、本に載っていない情報をさらに調べようと ICT 端末を活用していた。

その後、主幹学校司書と相談し、完成したリーフレットを学校図書館に展示し、利用する他学年や教職員に感想を書いてもらうことにした。児童は、自分が書いたリーフレットが、他者に読まれ、感想や質問をもらえたことについて「ほかの人が読んでくれてうれしい」「頑張ってよかった」「ほかのものもやってみたい」と、喜び、目的をもって文をまとめたり整理したりすることにさらに、意欲的になっていた。これらの活動を通して、多くの児童が、「学校図書館」という場所は本を読むだけでなく、調べたりまとめたり、自らが主体的に調べたいことを追求できる場所という認識が広がったと言える。

③　情報センターとしての学校図書館

本校では、国語科の言語活動だけでなく、他教科の学習においても情報センターとしての学校図書館活用に努めている。その中で、ＩＣＴ端末の活用にあたっては、課題となっていることが２つ挙げられる。

一つ目は、児童が必要な情報に辿り着くまでに、支援が必要であることである。インターネットを開いて、検索ワードを２～３個入力しても、膨大な情報と読みにくい（漢字に仮名がない）文章が出てくることがほとんどである。児童が調べやすいように学校図書館における電子書籍の導入が必要である。そうすれば、児童が自らの力で、情報まで今よりも短い時間で辿り着くことができるだろう。

５年　「和の文化を受け継ぐ」より

二つ目は、情報の比較や取捨選択をするための情報リテラシー教育が十分でないことがあげられる。児童は、自分が書きやすいというだけの理由で文章を抜き出してまとめることがある。情報収集、検索、情報の信頼性を確かめることは、指導をするが、児童一人一人に支援が行き届かないのが現状である。個別最適な学びを、ＩＣＴ端末を活用しながら進めるためには、使い方やマナー教育を並行して取り組む必要がある。

本校では、学校主幹司書が必要な情報までの二次元コードを個別に作成するなどして、調べ学習の充実を図っている。情報の安全性についても、二次元コードを生成する際に指導者が確認しているため、安全であると言える。

本単元の学習では、最後にスライドを作成することとなっている。ＩＣＴ端末を情報媒体として、発表ツールとして活用する時間も設けている。上記の課題を踏まえて、チャレンジングではあるが、主幹学校司書と協働し、児童の主体性を大切にしながら情報センターとしての図書館活用を意識した学習の取り組みを進めていく。今後、調べた内容や成果物を、ICT 端末を活用して児童が互いに交流する表現活動を設定していくことで、協働的な学びの展開の大きな手助けとなると考える。

【教材観】

本教材の「くらしの中の和と洋」は、学習指導要領の「C 読むこと」の指導事項イ「目的に応じて中心となる語や文を捉えて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと」「目的に応じて重要な語や文を選び要約すること」をめあてとしている。

本文は、くらしの中の「住」における和と洋の違いや良さを対比して分かりやすく説明したものである。文章が、「はじめ―中―終わり」という構成になっており、全体の内容が捉えやすい。中では「すごし方」と「使い方」の２つの観点が、和と洋で、対比構造で述べられており、それぞれの良さが明確になっている。児童は、文章全体の内容を把握し、大事な語や文を選んで引用・要約をすることに効果的な教材であると言える。また、言語活動として、和と洋ブックの作成を設定している。テーマを決め、本文の文型を基本に、和と洋の違いや良さをまとめることで、関連のある本を読み広げたり、さらに深く調べたりするなど、多様な調べ活動も展開できるだろう。

続けて行う「和のみ力を伝えよう」では、「書くこと」の指導事項アの「相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた資料を比較したり、分類したりして、伝えたいことを明確にしている。」をめあてとしている。「和のみ力」について、スライドを使って発表する活動である。前時までの和と洋、それぞれに良さがあるというところを押さえたうえで、さらに和のみ力を調べることとなる。児童は、資料を収集、整理しまとめる活動を通して、自分の身の回りに当たり前に和の文化が存在しており、それらに囲まれ生活していることに気付くだろう。そして、その利便性や受け継がれてきた日本特有の文化に改めて目を向け、その良さを再認識できる。また、さらに深めたい場合、「和のもの」が実は外国から来たものもあり、日本人が独自のものとして作り変えてきた歴史にも目を向けることができる。それを通して、日本文化とは、実に多様な文化を受け入れ、それを独自のものとして作り変えていることに気付くだろう。これらの気付きを通して、私たちの文化は多様な文化を受け入れながらより豊かになっていったことに気付き、他国の文化についても、興味関心をもつようになる。

２つの単元の全体を通して、自分が興味関心のあることをさらに深く調べるという経験をし、これまで学んできた文章を読み取る力、要約する力、ICT 機器の活用などに取り組むことができる機会となる。

【指導観】

本学習は、「くらしの中の和と洋」と、「和のみ力をしょうかいしよう」という二つの単元をつなげて取り組む。学習の目標は、一つ目は、「目的に合わせて要約しよう」、二つ目は「目的に合わせて材料を整理しよう」である。

（１）「くらしの中の和と洋」の学習において（主幹学校司書との協働には下線）

単元の学習に入る１か月半前に、大阪市立図書館へ並行読書用の本の貸し出しを、主幹学校司書と協働して行う。昨年度も同単元で行っており、４月当初の学習の年間指導計画を立てる段階で決めており、６月初旬ごろに、授業内容やテーマについて指導者と主幹学校司書で相談し、大阪市立図書館宛てに「和と洋の調べ学習」「和のみ力、祭り、文化」とテーマを挙げて要望を出した。選書は、市立図書館司書の方々が行ってくださり、約 100 冊以上の図書がそろった。

学習のはじめは、三年生の社会科で学習した「昔の道具」について想起するようにし、衣食住にかかわって日本で古くから使われていた道具や、現在も使われている道具について確認しておく。

第一次は、学校図書館で行う。はじめに、「大阪くらしの今昔館」のウェブサイトから、昔の人の暮らしを見て、児童自身がこれまでに見たり、触ったりしたものについて共有し、和の文化についての興味関心を高める。その後、事前に準備した「和」のものについて、学校図書館に実物を展示したり、資料を提示したりして、その大きさや形などを実物に近い形でイメージできるようにする。その後、ハテナシートを活用して百科事典の使い方を学習する。

次に、３年生までに学習した説明文「自然のかくし絵」を提示し、スモールステップで、説明文の文章

構成や、読み取りの手順を確認する。手順としては、説明文全文を児童が全員が手にして、「大きな問い」とそれに対する「答え」を読み取り、「始め」「中１，２」「終わり」といった文章構成を理解し、終わりの部分にある筆者の主張や、「例に挙げる」「写真」「資料の引用」などの説明文の工夫があったことを想起し、確認するようにする。

そして、並行読書と記録カードについて周知し、言語活動の一区切りでは、「和洋ブックを作る」ことを知らせ、見本を提示し児童が見通しをもって学習に取り組むことが出来るようにする。並行読書で読んだ本は、記録カードに「和と洋」の対で記録する。「和」のみの場合は、自分が調べたい「和」のものを記録できる部分に分けて書くようにし、「和のみ力調べ」の際に課題設定に役立つようにする。

第二次では、まず初めに、接続語や文末の言葉などに着目し、本文を文のまとまりごとに分け、文章構成を確認する。その後、それぞれの文のまとまりに見出しをつけ、読み取りを進めていく。進めるにあたって、本文では「和と洋」とあるが、「洋」は「西洋」であることが想像しにくい場合は、「日本（昔からあるもの）と、アメリカやヨーロッパ（新しくて外来のもの）」と言い換えるようにする。

児童の生活環境から、「住」は、多くは家具などが「洋」のものと予想されるため、「和」については、本文の挿絵や実物を用いて、出てくる道具をイメージできるようにする。内容を理解した後、「要約」に取り組む。どの児童も、要約できるようにスモールステップで取り組むようにする。

手順として、①目的「テーマ」を提示する。②目的に応じた言葉や文を選びサイドラインを引く。③それを自分の言葉で、限られた文字数でまとめる。まとめる際に、接続語「一方」「～だが、」などの言葉も活用して、文を短くすることを助言する。①～③を、全体、グループ、ペアでと段階を踏んで行い、最後には、個人で行うようにする。要約の最後の時間には、クリティカルリーディングを促す発問として、「筆者はこれまで両方の良さを述べてきたが、どちらが良いと思っているか」と問いかける。児童は、何度も本文を読み返しながら、考えを深めており、答えは半数ずつに分かれることが予想される。児童は迷いながら発問を考えることで、筆者の意見はあったとしても、読み手に両方の良さが伝わるように本文を書いていることに気付くと考える。そうすることで、今後、自分が書き手となって和と洋ブックをまとめる際に、片方だけの書くのではなく、両方の良さを調べて書くことの意識付けになると考える。

第三次では、言語活動を学校図書館で行う。和と洋ブックの見本をもとに、これまで、並行読書の本から記録してきた中から対になっているものの中で、テーマを決める。調べるにあたって、主幹学校司書と協働し、１人１資料となるようにする。紹介するテーマとしては、①２つの「違い」（それぞれの特徴を書くこと）、②それぞれの良さ（使い方、使われ方など）を書くこととする。取り組む前に、「情報をせい理するコツ」として、要約「まとめること」と引用「文章を抜き出すこと」について改めて確認する。目的に応じて適切な図書を選び、情報を収集することと、またその情報を整理してまとめる活動に個々に取り組む。ここでも、書くためのスモールステップとして、次の５段階を丁寧に踏んで、進めていくようにする。①テーマをしぼる。②調べる。（資料集め）③文の伝えたい部分を切りとる。④文をまとめる。⑤文を書く。である。この流れは、自ら進めることのできる児童だけでなく、個別の支援としても指導者と主幹学校司書で共有し、図書室で児童の支援ができるような環境で行う。１人１資料を用意し活用することや、個別の支援を適切に行うなど、調べ学習から表現活動までを充実したものにするためには、自ずと学校図書館の活用、市立図書館との連携の成否が成立の大切な条件となると考える。

完成したら、学習のまとめてとして、全体に発表し、互いにいいところを認め合うようにする。その後、しばらく学校図書館に展示し、学校の児童や教職員などが手に取って読めるようにする。

【選ぶ際の参考資料】

「『日本と世界のくらし』どこが同じ？どこがちがう？　**衣**」より

衣服：和服と洋服
履物：下駄と草履と靴、足袋と靴下
衣服と収納：和箪笥と洋箪笥
花嫁衣装：和式と洋式
喪服：白と黒
筆記用具：筆とペン
書く・伝える：和紙と洋紙
荷物を運ぶ：風呂敷とカバン
拭く：手ぬぐいとタオル

「『日本と世界のくらし』どこが同じ？どこがちがう？　**食**」より

主食：米とパン
食材：魚と肉
食卓：ちゃぶ台とテーブル・イス
食事の道具：おはしとスプーン･フォーク、
飲み物の器：湯のみとコップ
お茶：緑茶と紅茶
調味料：しょうゆとソース
カレー料理：カレーライスと世界のカレー
お菓子：和菓子と洋菓子
季節の行事：お正月とクリスマス

「『日本と世界のくらし』どこが同じ？どこがちがう？　**住**」より

住まい：木造と石造り
床材：畳とカーペット
食卓：ちゃぶ台とテーブル・イス
扉の様式：ふすまとドア
建設インテリア：障子とカーテン
保護：座布団とクッション
寝具：布団とベット
入浴：風呂とシャワー
トイレ：日本と西欧
暖房：囲炉裏と暖炉
あかり：日本とヨーロッパ

.学習指導計画「くらしの中の和と洋」（全 13 時間）

次	時	学習活動	指導・支援・評価　★評価規準
1	1	【図書の学習として行う】（図書館） ・昔の道具を資料とともに振り返る。 ・図鑑の使い方の復習、百科事典の使い方の学習 ・資料の使い方、検索ワードによる検索の仕方	・主幹学校司書と指導者とで行う。
	2	・既習の説明文を読み、説明文の構成を復習する。 「自然のかくし絵」	・説明文では、始め「話題提示や大きな問い」、中「問い、答え、説明」、終わり「大きな問いの答え、主張、まとめ」であることを確認する。 ★段落相互の関係に着目しながら、文の構成を理解している。（全文ワークシート）（C(1)ア）
	3	・題名読みを行う。 ・範読を聞き，初発の感想を伝え合う。 ・「くらし」という言葉の意味を理解したり、「和と洋」についてイメージを膨らませたりする。 ・意味が分からない言葉を調べる。 （欧米、伝統的、ひざをくずす、あぐらをかく、間かく、目上、見当、） ・並行読書について知る。和洋比べカードに記録する。 ・「くらしの中の和と洋ブック」を学級として１冊つくり、学校図書館において、全学年に読んもらうという言	・「くらし」という言葉から，「衣食住」の言葉に結び付く行動を想起するようにする。その後、児童の生活の中での「和」や「洋」の体験や、経験を出し合うようにする。 ・和と洋についての資料の並行読書を行う。 ・「くらしの中の和と洋ブック（１ページのみ）」の見本を見せ，単元全体の見通

		語活動を知り、単元の見通しを持つ。 ・その後、「和と洋プレゼンテーション」をすることを伝える。	しをもつことができるようにする。
2	4	・文をまとまりごとに分ける。 ・文章に①～⑮までの番号をつけ、「始め」「中」「終わり」にわける。 ①②始め「話題提示、大きな問い」 ③中１（和室と洋室の大きな違い） ④～⑩中２(過ごし方の違い良さ) ⑪～⑬中３（部屋の使い方の違いと良さ） ⑭⑮終わり「答え・まとめ」	・全文を掲示し、これまでの学習を想起させ、「～考えてみましょう。」「～のでしょうか。」という文に着目するようにする。それを「問い」とする。また、「まず」「次に」「このように」などの接続語に着目させ、文章のまとまりを考えるようにする。そして、中を３つに分けるようにする。 ・「始め」「中①～③」「終わり」に分けながら、それぞれの役割を考えることで、全文を大きく捉えることができるようにする。
	5	・「始め」を読み取り、要約する。 ・「始め」について、挿絵からわかる衣食住のそれぞれに違いについて、話し合う。 ・①②の中で、話題提示として大切な文を１文選び線を引き交流する。 ・90 文字枠シートに書き写す。 ・要約した内容を交流する。 【ここでは、「衣食住」の「住」を取り上げ、日本のくらしの中で「和」と「洋」それぞれのよさがどのように生かされているか、考えてみましょう。】	・要約の目的は、「話題提示」として必要な文章とし、文を選ぶようにする。 ・①②全体を読んで、自分の言葉で要約することに挑戦しても良いことを伝える。 ・要約について、苦手意識を持っている児童には、目的を意識して文を選ぶように助言する。
	6	・「中１」を読み取り、要約する。 ・「中１」は、自分の生活環境を振り返り、和室と洋室の挿絵を見ながら、和室・洋室での経験を想起し、過ごし方、部屋の使い方について考える。 ・「一方」とう接続語が比べるときの言葉であることを確認する。 ・③から、「大きな違い」がわかる１文を選び、線を引き、交流する。 ・90 文字シートに書き写す。 【和室と洋室の最も大きな違いは、ゆかの仕上げとそこに置かれる家具だといってよいでしょう。】	・挿絵から、「大きな違い」(ゆか、たたみ）について着目するようにし、要約のための手立てとする。 ・要約の目的は、「和室と洋室の大きな違い」として必要な文章とし、文を選ぶようにする。

	7	・「中２」を読み取り、要約する。 ・「中２」は、まず⑥の問いに着目する。 ・⑦⑧で和室、⑨⑩で洋室の過ごし方の違いと良さについて要約する。過ごし方の違いと良さがわかる語や文に線を引く。 ・交流する。 ・それぞれ 90 文字シートにまとめる。 【和室では、いろいろなしせいをとることができ、人との間かくも自由に変えられます。人数が多くても、みんながすわれます。】 【洋室では、いすの形が工夫されているので、長時間同じしせいでもつかれません。次の動作にうつるのもかんたんです。】	・選ぶために手立てとして、文の構成とまとまりの内容がわかる一文を書いた表を掲示しておく。 ・要約の目的は、「過ごし方の違いとよさ」として必要な文章とし、文を選ぶようにする。 ・選ぶことが困難な児童は、一文を選ぶように助言する。
	8	・「中３」を読み取り、要約する。 ・「中３」では、まず⑪の問いに着目する。 ・⑫⑬で部屋の使い方について要約する。使い方についてわかる文に線を引く。 ・交流する。 ・90 文字シートにまとめる。 【洋室は、そこに置いてある家具で何に使う部屋かわかります。これに対して、和室は、一つの部屋をいろんな目的に使うことが出来ます。】	・「これに対して」も、比べるときに使う言葉であることを確認する。 ・要約の目的は、「部屋の使い方の違いと良さ」として必要な文章とし、文を選ぶようにする。
	9	・「終わり」を読み取り、要約する。 ・⑭⑮の、始めの大きな問いの答えが重要な語であることを確認し、線を引くようにする。 ・交流する。 ・90 文字シートにまとめる。 【和室と洋室にはそれぞれの良さがあり、わたしたちは、両方の良さを取り入れてくらしています。】 ・クリティカルリーディングを促す発問として、筆者は、「和室」か「洋室」のどちらがいいと考えているかと問いかける。 ・その理由も考える。	・終わりは、まとめや筆者の主張があることを確認する。 ・要約の目的は、「筆者の主張や大きなな問いの答え」として必要な文章とし、文を選ぶようにする。 ★目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約している。(要約文ワークシート）(C(1)ウ) ・クリティカルリーディンのための発問を行う。 ・筆者は説明文で和室と洋室の両方ｎ良さを分かった上で、「和室」の良さを

		・交流する。 ・どちらか一方だけを強調するではなく、両方の良さを知った上で、自分の主張を述べることの良さを考えるようにする。 ・次時から、和と洋ブックを作ることを知らせる。	強調していることに気付くようにする。 ★筆者の考えとそれを支える理由や事例などについて叙述をもとに、内容を捉えている。(ワークシート)(C(1)ア)
Ⅲ	10	・自分で調べたい和と洋、「衣食住」のどれかにかかわるものを決め、載っている本を探す。(図書館) ・テーマを決めて、表に書き記し、ブックに書く。 ・資料の探し方を思い出す。 ・①違い、②それぞれの良さを書くことを確認する。 「情報をせい理するコツ」 引用「文を抜き出す」　言葉「～によると」 要約「自分の言葉でまとめる」	・図書館で行う。 ・これまで並行読書してきた項目の中から選ぶようにする。書くにあたって、追加の資料として必要な場合は、本から調べる。 ・一人一資料となるように、主幹学校司書と協働する。 ・ワークシートを使って比べながらまとめるようにする。
	11 12	・本と紙の資料を確認しながら、違いと良さを見つけ出し、線を引く。 ・ブックの一部としてまとめる。	・資料から必要な語や文を選び、要約するようにする。書く際に、説明のための言葉を想起させながら、書くようにする。 ★集めた資料を比較したり、分類したりして、伝えたいこと明確にしている。(発表・態度) ★相手や目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約している。(ブック)(C(1)ウ)
	13	・全体で交流し、友だちの良いところを発表し合う。 ・次は、スライドを使って紹介する活動をすることを知らせる。	・互いを認め合うことができるようにする。 ★書こうとしたことが明確になっている。自分や相手の文章の良いところを見つけている。(B(1)ｵ)

（２）「和のみ力をしょうかいしよう」の学習において

指導に当たって、１時間目は、まず、これまでの和と洋ブックを作成したときの情報の集め方やまとめ方を振り返る。その後、「プレゼンテーションを使って和のみ力をしょうかいする」という学習のめあてを知らせる。その際、「み力」という言葉の意味について「すごいところ」「推しポイント」という言葉に置き換えて、共通理解し、調べる目的を明確にする。その後、プレゼンテーションまでの見通しが立つように、指導者が発表の見本と手元原稿を見せ、デモンストレーションをして示すようにする。全時間を学

校図書館で行う。

発表用のスライドは、３ページ（１枚目はテーマと名前、２枚目は良さ、３枚目すごところ）とする。

「ぞうりのみ力」 南市岡　花子	【ぞうりの良いところ】 ・風通しがいい ・お手入れがかんたんでいい	【ぞうりの推しポイント】 ・クッション性があって、長時間あるいてもつかれない。 ・植物からつくられているから、

その後、調べたいテーマを決める。児童は、記録カードから、和と洋ブックの時に選んだテーマでも、再度、新しいテーマでも、決めなおしても良いこととし、自分でテーマを設定するようにする。資料の関係上、児童に第２希望までとり、次の時間までに、主幹学校司書と相談して、できるだけ書籍や図鑑などで示すことのできる資料を探す。必要な資料については、学校図書館の図書だけでなく、ICT 端末でも主幹学校司書が用意した二次元コードを使って、児童が目的に応じて１人１資料を活用し、情報収集できるようにする。

２時間目は、決めたテーマの「和の紹介」部分についての手元原稿を作成する。手元原稿ができてから、それを要約して、発表スライドのキャッチコピーを作るという手順を知らせ、手元原稿を丁寧に作成するように伝える。まとめる際に、和と洋ブックと同じテーマであれば、それの内容を発表の言葉に書き換えながら、複写してもよいこととする。違う場合は、調べて、紹介の部分の手元原稿を仕上げるようにする。

本時である３時間目では、調べ学習を行う。調べる内容は「和のみ力」である。調べたことを、手元原稿としてまとめていくようにする。良さの中でも、すごいと思ったことをさらに深く伝えたり、児童自身が紹介したりしたいすごいところは、良さと違っていてもいいと助言する。４時間目も引き続き行う。

５時間目は、学校図書館で自分が書いた手元原稿を要約し、スライド原稿を作成する。必ず、手元原稿の完成を優先し、自分で作成した文章を読み手が分かりやすいように要約する。その際に、１学期の「広告をよみくらべよう」で学習した、キャッチコピーや、見出し、写真の表し方を想起させ、使用したい写真やイラストなどの情報も活用してよいことにする。スカイメニューの発表ノートを使って作成するようにする。追加の情報などで、手元原稿の書き足しや、削除などをする児童もいることが予想されるため、「和のみ力をしょうかいする」という目的を明確にして、活動を進めるように助言する。

６、７時間目は、発表練習と発表の時間として、調べたことを伝え合うようにする。作成したスライドや発表の仕方など、工夫して取り組むようにする。また、児童が互いの工夫したところなどを交流する場とする。交流の場では、児童は 24 人（学級児童数）分の和の魅力を聞くこととなる。その際に、和の文化と思っていたものが「実は・・外来のものであったという」であるとか、「ところが、日本人の手によって日本風になっていたのだ」というようなさらに奥深く文化を知るきっかけとなると、一つのことを深く深く調べていくことの達成感や、探求心の向上につながると考える。

【和のみ力をしょうかいしよう】（全７時間）

時	学習活動	指導・支援・★評価
1	【学校図書館で行う】 ・これまでの調べ方やまとめ方について振り返る。	・主幹学校司書は資料を準備する。

	・「み力」という言葉について知る。 ・指導者の発表デモンストレーションを見て、学習に見通しをもつ。 （予定：仲宗根先生　剣道、山下先生　和食器、仲井間先生　すもう、辻先生　　華道、城先生　和食、中林　ぞうり） ・テーマを決める。	・み力＝「いいところ、推しポイント、特徴、すごいところ」と伝える。 ・デモストレーションを見せ、学習の見通しを持つようにする。 ・児童は、新たなテーマ設定をしても良い。
2	・テーマの「和のしょうかい（よさ）」について、手元原稿をまとめる。 ・和の良さは、２つ程度にする。	・これまでの書籍を使用しても良いし、別の書籍で調べても良いこととし、より多くの書籍や資料に触れることができるようにする。 ★目的を意識して書くことを選び、集めた資料を比較したり分類したりしている。（ワークシート、思考・判断）
3 本 時 4	・「和のみ力」について、調べ活動を行う。 ・自分の紹介したい「すごい」「推しポイント」を決める。２つまでとする。 ・手元原稿を作成する。 ・書籍や ICT 端末も活用して、調べても良いこととする。	・担任と主幹学校司書で、書籍だけでなく、ICT 端末で情報にたどり着くまでの二次元コードなどを用意する。 ★目的を意識して書くことを選び、集めた資料を比較したり分類したりして伝えたいことを明確にしている。（ワークシート、思考・判断）
5	・スライドを作成する。 ・スライド見本を、もとに手元原稿を要約し、レイアウトなどを考え作成する。 ・載せたい写真やイラストは、スライド１枚につき、１枚までとする。	・文字入力などは、困難な場合は、指導者が行う。表紙は、指導者が作成する。 ・手元原稿が出来ていない場合、原稿ができてから、スライドに取り組むようにする。
6 7	・発表練習をする。４人グループで同じ班の友達に紹介する。（１人３回できる。） ・お互いに発表し合うだけでなく、主幹学校司書や普段関わりのある先生方に来ていただき、発表する。	・互いのいいところや、スライド作成、発表の工夫などを認め合うようにする。 ★発表に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章の良いところを見つけている。（主体的に取り組む態度）

9．本時の学習

（1） 目標（3/7時間）

・テーマについて、図書やICT端末を活用し情報や材料を集めることができる。

・集めた材料を比較・分類し、要約しながら、目的に応じてまとめることができる。

（2）展開

学習活動	指導上の留意点（指導者の指導・支援）	評価規準
1．前時までの、「和と良さ」について、調べたりまとめたりした学習を振り返る。	・手元原稿を確認する。 ・これまでは、書籍を使って調べていたことを確認し、今回はさらに深く調べることを確認する。	・一人一資料 ・手元原稿用紙
2．本時の学習のめあてを知る。	めあて：和の　み力について　調べよう	
3．「み力」の意味を確認する。 「すごい！」 「推しポイント」	・人によってみ力を感じるところは違うが、伝え手である児童本人がみ力と感じたことを紹介するということを押さえる。	
4．調べ方とまとめ方の見本を提示する。 ・手元原稿の見本を確認する。 ・２つまで書いてもよい。	・手元原稿を作成するにあたって、ICT 端末も活用して、調べても良いこととする。	★目的を意識し、資料を比較、分類している。(主体的に取り組む態度)
5. 調べ活動に取り組む。	・資料の内容を要約することが困難な児童は、資料の中の「すごい」と思うことが書かれている文の重要な語や、文章を選ぶことを助言する。	★資料を目的に応じて要約し、まとめることができる。(ワークシート)
6．次時も引き続き行うことを知り、学習を終える。	・原稿が作成できたら、読み返して誤字脱字がないか、また、キャッチコピーなど考えるようにする。	

１０．板書計画及び学校図書館配置図　　ホワイトボード

め　和の　み力について　調べよう

み力＝「推しポイント」、「すごいところ」

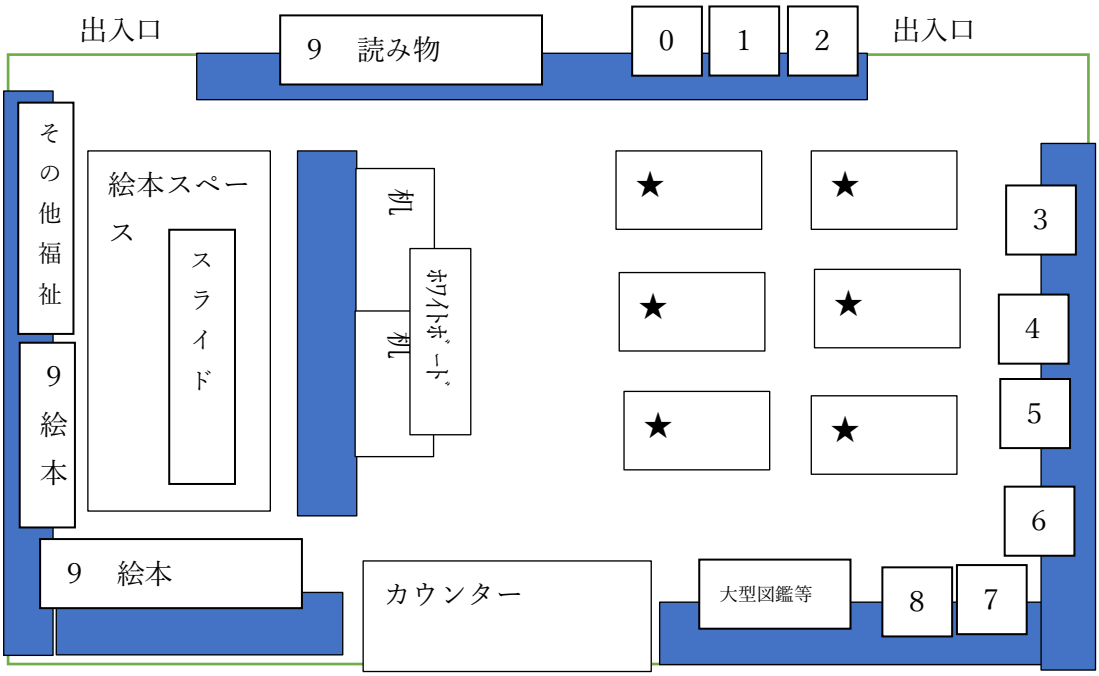
調べ方：本、インターネット　　調べ方

見本

二次元コードや

情報を調べるコツ（指導案：１１P）

学校図書館配置図



※児童の席は、テーマごとに分かれるが、特に決めない。(★は児童のテーブル)

※並行読書してきた本もワゴンにのせてカホワイトボードの近くにおく。

今後の予定

単元「和と洋ブックをつくろう」

時間	内容(場所)	1組	2組	学年行事
1	百科事典の使い方、調べ方（図書室）	9月4日(木)2H		プール
2	説明文の読み方「自然のかくし絵」(教室)	9月5日(金)3H		プール
3	本文、初発の感想、題名読み、意味調べ、並行読書、学習の見通し(教室)	9月9日(火)4H		
4	本文の文章構成（教室、以下9まで）	9月10日(水)3H		生きる公開
5	始め、読み取り要約	9月11日(木)3H		
6	中1、読み取り要約	9月12日(金)3H		
7	中2、読み取り要約	9月16日(火)4H		
8	中3、読み取り要約	9月17日(水)3H		生きる参観懇談
9	終わり、読み取り要約、クリティカルリーディング	9月18日(木)3H		3年研究授業
10	和と洋ブック、テーマ決め、情報整理のコツ、見本再度提示（図書室）	9月19日(金)3H		
11	調べる、まとめる（図書室）	9月24日(水)3H		
12		9月25日(木)3H		
13	和洋ブックの発表、次単元の予告(図書室)	9月30日(火)3H		

単元「和のみ力をしょうかいしよう」

時間	内容（全図書室）	1組	2組	学校行事
0 1	和のみ力プレゼンテーションデモを見る、見通しを持つ、み力の言葉説明、テーマ決め、調べ方振り返り、情報整理のコツ復習（引用と要約）	10月1日(水) 3H（紹介） 10月2日(木) 3H(紹介)	10月1日(水)	
2	手元原稿、和の良さを、写す、調べる、まとめる。(これまでの振り返りで時間とる) 手元原稿（200文字前後、原稿用紙半分）	10月3日(金) 3H（紹介） 10月7日(火)3H	10月2日(木)	
3 ★	手元原稿、和のみ力を調べる、まとめる。 手元原稿（200文字前後、原稿用紙半分）	10月8日（水） 5H	10月3日(金) ﾌﾟﾚ	
4	3時間目の続き	10月9日(木) 3H	以下、担任裁量	
5	手元原稿をもとにスライド作成・発表練習	10月10日(金) 3H		
6	発表	10月14日(火) 4H		
7	発表	10月15日(水) 3H		